

京都の伝統産業を利用した オリジナル布雑貨商品 「ふ」本舗

「ふ」本舗

代表

坂田

陽子さん



(左) 代表 坂田 陽子さん
(右) COO 網師本知余香さん

平成25年度 採択事業

東日本大震災の復興支援から

「ふ」本舗代表の坂田陽子さん、COOの網師本知余香さんは、ふんばろう東日本支援プロジェクト京都支部のメンバーです。ふんばろう東日本支援プロジェクトは、東日本大震災を機に平成23(2011)年4月に発足したボランティア組織で、SNSを駆使した支援システムを構築し、現在も「必要なものを必要とところに必要だけ送る」をコンセプトに活動を続けています。網師本さんはこの京都支部代表も兼任。「ふ」本舗は、この復興支援プロジェクトから発足したオリジナルブランドで、主に被災地の仮設住宅などに暮らす、職を失った女性達にお仕事を創り出すことで、将来への希望を取り戻してもらう、雇用創出事業としてスタートしました。

ふんばろう東日本支援プロジェクトの京都支部が発足したのは平成23(2011)年10月。まだ京都支部が立ち上がっていない頃、網師本さんを中心とするネットワークで、寄付して頂いた布団の生地から暖簾を200枚縫い、被災地に届けたところ、大変好評を頂いたことがあったそうです。京都支部発足時の唯一の財産は、その時に届けたごみ袋4袋分の端切れ。その後坂田さんのアイデアで、これらの端切れを縫い合わせてデザインしたなべつかみを被災地の方々に縫製していただき、大好評を頂くこととなります。実は、網師本さんが支部発足後の11月に被災地へ趣き、「何が欲しい?」とヒアリングして廻った際に「仕事が欲しい」という声を一番多く耳にされたそうです。被災地の方々は、寄付で高価な物資が届くより、安価なものでも自分で買いたい、という、経済的な自由を求めているのです。それこそが、一瞬で何もかもを失った被災地の方々の生き甲斐となり、尊厳につながる・・・そう確信したお二人は、デザインと発注、ホームページなどの発信を坂田さんが、経営戦略と販売営業を網師本さんがそれぞれ担当し、被災地に「縫製の仕事」を届ける商品開発を始めました。



なべつかみを作る被災地の女性達

伝統製品の活用

プロのお針子さんとして意識高く

なべつかみの次に手がけたのは、すっきりポーチ。京都の伝統産業である着物の生地を利用して作った、カードなどの小物を入れるケースです。被災地の方から着物が欲しいと言われたことをきっかけに、京都で中古の着物の寄付を呼びかけたところ、上質で状態の良い着物が沢山集まってきたそう。始めは、着物をそのまま被災地へ届けていたのですが、よりニーズに合った小物にしようと、坂田さんが何度もデザインに改良を重ね、使いやすく手に取りやすい価格の商品として生まれ変わりました。商品は、デザインや色合いを考えた材料を一式セットにして被災地へ発注し、被災地で縫製した商品をまた「ふ」本舗が買いあげる、というシステムで生産しています。被災地支援をうたわなくても売れる商品開発をモットーに、デザインにこだわり、材料費を寄付で賄うことで、割高になりがちな手作り品の価格設定にも工夫を凝らしています。手作りの1点物は縫製の質も良く、材料となる着物生地も素材にこだわっているため、競合はいないと網師本さん。そこへ、被災地支援が付加価値として加わり、生産者も消費者も寄付者も喜ぶ三方良しの商品開発が実現しているのです。



着物生地を使ったすっきりポーチは、用途に応じてサイズ展開している

被災地の方々には、謝礼やおこづかいではなく給料として賃金をお支払いし、縫製のプロとして仕事をしていただいています。縫製を担当される方々からは、手仕事を通して生まれるコミュニティや、人とつながっている安心感などを実感して頂けているようで、「あの時のことを一瞬だけ忘れられた」というメッセージを頂いたことも。お二人とも、何より縫製のメンバーが楽しそうにお仕事をしてくださるのが嬉しいそうです。そのためにも、「ふ」本舗はビジネスとしてしっかりと成り立たなくてはならない、と決意も深まります。

革新的なビジネスとして展開

今後の商品展開としては、着物生地を使った新商品のラップトップケースが完成したところ。デザインにこだわるアップルユーザーをターゲットに、機種に合ったサイズにセミオーダーできます。また、採算が取れるギリギリの範囲で小ロットに挑戦する「ナノOEM」や、こんなあつたらいいな、という声にお応えする「スーパーニッチ」の分野も広げていきたい、と網師本さん。10年間、アメリカで過ごした経験のある網師本さんは、マーケティングなくしてビジネスは成り立たないと、被災地の声はもちろん、商品の飛び込み営業や市場調査など、各地へ飛び回ります。一方坂田さんは、確かなデザイン力で商品開発を一手に引き受けるとともに、発注に際してはお手紙や時にはお菓子を添えるなどして、細やかな配慮でお針子さんたちと信頼関係を築いています。当初から、お二人ともご自身のビジネスと兼業で「ふ」本舗に携わっていますが、お二人の得意分野を活かして少しずつ展開し、将来的にはビジネスの規模を拡大したいそう。被災地の方々の笑顔のためにも、海外でも評価される質の高い商品を生み出していきたくと、世界の「FU-HOMPO」を目指しているのです。



特に大柄の着物生地を活用したラップトップケース



「ナノOEM」で納品したコースター

事業概要

「ふ」本舗

<http://fu-hompo.com/>

代表：坂田 陽子

業種：オリジナルイノベーション商品の製造、販売業

設立：平成25(2013)年

住所：〒607-8147 京都市山科区東野森野町 23-67

TEL：075-501-3656 FAX：075-501-3756